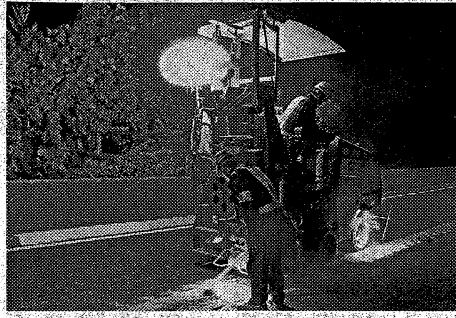


ランブルストリップスを九州初採用

NIPPO



八木山B Pを夜間通行止めにし、
・施工を進める

NIPPOは、走行中の車に振動を与えることで車線逸脱事故を防止する「ランブルストリップス」を九州で初めて八木山バイパス（B P、福岡県篠栗町～飯塚市）の舗装改良工事で採用し、施工を進めている。発注者の西日本高速道路会社への技術提案により採用が実現。B Pの総延長約13・3キロのうち、カーブや勾配のあるところなど約半分の区間でランブルストリップスの設置を進めている。

同社が土木研究所寒地土木研究所と共同開発したランブルストリップスは、専用の小型切削機を使って舗装路面上に連続的な溝を帯状に構築する工法。車両がセンターラインに設けた溝の上を通過すると、振動と「ゴロゴロ」音でドライバーに注意を促し「うっかり」「ぼんやり」「居眠り」などによる交通事故を未然に防止する。

経済性と施工性に優れていることや車線逸脱防止効果が高い点などが評価され、国土交通省が新技術活用のための情報共有提供を目的に整備した「新技術情報提供システム（NETI

八木山B P 带状溝で注意喚起

S」の推奨技術第1号に選定された。

03年度に技術が確立されて以来、12年度末までに全国で751件（152万1559延米）の施工実績があり、ランブルストリップスを導入したことで危険区間の死亡事故が激減したとの報告もある。

同社は、八木山B P舗装改良工事にランブルストリップスを導入することを西日本高速道路会社に提案。並行する国道201号の難所である八木山峠の交通問題解消を目的につくられた同B Pは、雪氷対策地域にあり、対面通行区間でカーブが多い上、橋梁部と土工部が交互に存在し、ドライバーに注意喚起する必要があるなどの理由で採用が決まった。

八木山B Pに導入されているランブルの仕様は、長さ170ミ、幅150ミで、これを300ミピッチで配置。施工は、10月15日から夜間通行止め（午後9時～午前6時）をして行われている。

工事を担当しているNIPPOの荒木田靖所長は「午前6時には道路を開放しなければならず、分単位のタイムスケジューリングで作業を進めているが、残りの工期も気を引き締めて施工に取り組みたい」と語っている。